

Title: 鉄心石腸



高野 善介
旅を通して、己を鍛え、自分のテーマの撮影に集中しようと思います。

●最近のエントリー

- ☞ [インドさん、デリーさん、こんにちは。](#)
(2011.06.24)
- ☞ [インドでゴッポリタイのことを書いてみる。](#)
(2011.06.18)
- ☞ [そろそろインド。](#)
(2011.06.07)

●アーカイブ

- ☞ [2011年09月](#)
- ☞ [2011年07月](#)
- ☞ [2011年06月](#)
- ☞ [2011年05月](#)
- ☞ [2011年04月](#)
- ☞ [2011年03月](#)

●投稿カレンダー

●カテゴリ一覧

●ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE



RSS 2.0

鉄心石腸 > 2011年06月 アーカイブ

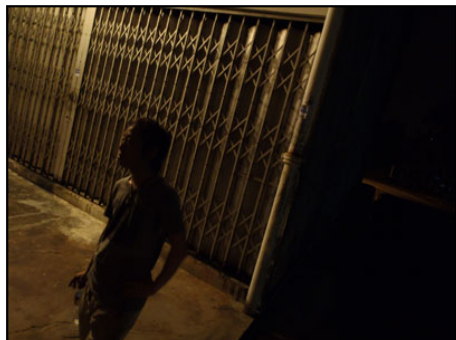
11.06.24

インドさん、デリーさん、こんにちは。

[Tweet](#)

[Check](#)

マレーシアはスクーリング施設にて富田先生のお見送りを背にインドに旅立ったわけですが、私はインドの子供達を好きになることはできないかも知れません。ご無沙汰してます。未熟者、高野です。



間の中で見送りをして下さる富田先生。

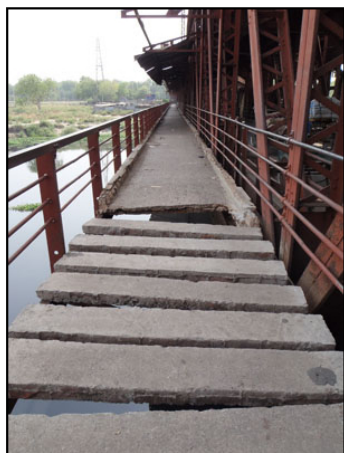


そして、インドに到着。

私の最初の撮影地はデリーです。ヤムナー河の川岸を歩きながらの撮影です。



この橋は渡る時に注意が必要です。必ず下を向いて歩きましょう。ヤムナー河にドボンします。



インドの川岸を歩いてみると、様々な人々の生活を見ることが出来ます。

インドの生活を知りたいなら、様々な人の生活を知ることが大切です。
ホームレスの人、沐浴する人、洗濯する人、排泄をする人、逸体となって焼かれる人、ソーシャルサエティとして支援する人達、人間の生活のすべてがさらけ出されています。
そして、せっかくなのでラール・キラーやデリーの町並みを観光してみました。



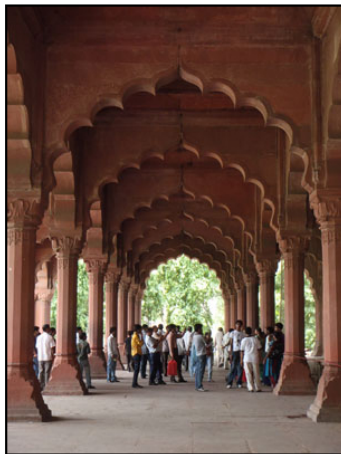
ニューデリー、メインバザールの様子。



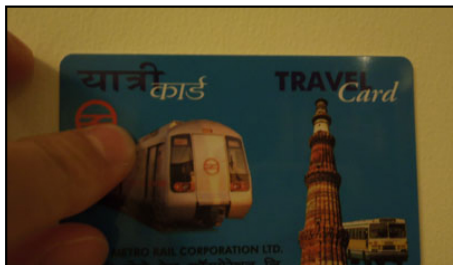
ラール・キラーの植え込みで作業する人達。

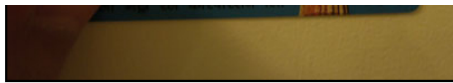


暑くてイスもだらけてる。



最後にデリーの地下鉄はとても便利ですが、時間帯や曜日によってはトークンを買うのに非常に時間が掛かってしまいます。時間を大切にしたいあなたにはこれ。





日本のPASMOやSuicaみたいなもんですね。
ガイドブックなどによると旅行者用にツーリストカードという1日券や2日券的なカードもあるようですが、私はインドの人達が使うチャージ式の方を買いました。100ルピーで買いい、50ルピーのチャージが入った状態で渡されます。
明らかにこちらの方が便利で安く済むと思いますよ。リファウンドもできます。

それでは、また次回。
タカノでした。

カテゴリ:

post by 高野 志介 | 日時: 2011.06.24 | [バーマリンク](#) | [コメント\(1\)](#) | [トラックバック\(9\)](#)

読心石監 > 2011年06月 アーカイブ

11.06.18

インドでこっそりタイのことを書いてみる。

[Tweet](#)

[Check](#)

どうも。
他のみなさんのブログを読むとインドという国は何か特別なものを感じさせてくれるようです。
私はそんなに特別なものをまだ感じ取れてませんが・・・受け入れやすい体質ってことでいいでしょう。
前置きが長くなりました。ご無沙汰してます。高野です。
ただいまインドはデリーで更新中。富田先生から教えて頂いた雷とレストランでインドを満喫しています。
さっそくインドのブログを書きたいところですが、恐れを知らずタイを更新します。
自分の取材地の場所だけはおそく後に書くであろう後輩のみなさまのためにもブログに書いておきたいところです。(もっともらしい理由を言ってみた。)

チェンコーンについて
チェンセーンからソンテオに乗ってレッツゴーするわけですが、ガイドブックに書いてある時間はあてになりません。人が集まってから出発なのが普通ですし、結局のところ、行くことさえはなんとかなります。



ソンテオ乗り換え場所の前の通り。のどかな田舎の風景を見ながらゆったりとチェンコーンを目指すのがとても気持ちよかったです。

チェンコーンは対岸にうオスのフェサイを望め、船に乗って国境越えができる町です。
国境を超えるために多くのバックパッカーが集まり、一泊して朝早く船でラオスに行くというのがここのお決まりのようです。
私のように3泊もする人はめずらしいのでしょう。泊まっていた番に客は初日を除いて私以外いませんでした。



ぜひ、ゆっくり休みたい人には運わらずおすすすめします。

チェンコーンを散策。





メコンで遊ぶ元気な子供達。



そして、チェンセーンに戻り、レンタサイクルをしてゴールデントライアングルに観光へ行ってきました。
ゴールデントライアングルは、タイ、ミャンマー、ラオスの三ヶ国の国境地帯であり、以前は麻薬の栽培地として名高かった場所です。
しかし、今やその姿は様変わり。本当に観光地です。



地名がゴールデンだからなのでしょう。ひねりがありませんね。



ちなみに、船に乗ってラオスの対岸に寄って帰って来れるそうです。自分は禁止されたので行けませんが、個人で来る機会があったら行ってみたいと思います。
久しぶりの自転車は明らかに日本からの中古品で、サドルが痛くてたまらない。痔にならないように気を付けて。
ではまた次回。
タカノでした。

カテゴリ:

post by 高野 恵介 | 日時: 2011.06.18 | [パーマリンク](#) | [コメント\(3\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

鉄石屋 > 2011年06月 アーカイブ

11.06.07

そろそろインド。

[Tweet](#)

[Check](#)

次回はいよいよタイ編へ

というブログを最後にご無沙汰しておりました。というよりもまず、更新遅れて本当に申し訳ありません。

高野です。

スクリーニングが終わり、シンガポールへ行き、写真展、スライドショーをなんとか乗り切って現在はマレーシア。

インド出発まで、残すところあと3日です。

スクリーニングはシンガポールの建築設計事務所ブログを見学したものを紹介します。お

ペン、シンクとシンクが、私のほかにシンクを元く用いた方が何がライティング、ヒ
びご院になってください。(忙しかったので、私は写真を換ってませんでした。)
しかし、文章だけになりますが、少しだけシンガポール写真展で行ったスライドショーの
感想だけ書かせて下さい。

まず、ご協賛いただいたオリンパスイメージングシンガポール様には心より御礼申し上げ
ます。
東京のオリンパス本社様、オリンパスイメージング様にも、このような貴重な機会を与え
頂き大変感謝致します。
そして、株式会社PICTORICO様よりご提供して頂いたインクジェット用紙を使用し、今回
の写真展を行っています。ありがとうございます。
また、会場をご提供して下さったナショナルジオグラフィック・ストア・シンガポール
様ありがとうございます。

私は、NPIに入塾してから写真を勉強し、今まで自分で撮影した写真を学校の中意外で見
せたことがありませんでした。
そういう意味では、今回のシンガポールでのスライドショーは、自分にとって初めての外
に向けて自分の写真を見せる機会でした。
正直なところ、自分の写真を受け入れてくれる人がいるのか不安で、いままで指導して下
さっている先生くらいにしか写真をみせて来なかったところがあり、今回は逃げられない
状況になったなという感じでした。

結果として、今回スライドショーを行って、自分にとっては自信に繋がる反応を頂いたの
で、終わってみればやってよかったです。特に自分と同世代の人達が、私の写真を気に入
ってくれたことがとても励みになりました。

しかし、写真技術、写真以外の人としての成長がなければ、まだまだ、将来写真家として
やっていくのは難しいことは百も承知です。FWを通してさらに自分自信を磨きたいと思
います。

一時の感情に溺れる事なかれ。

それでは、ブログを自分の旅の方へ戻したいと思います。

私の旅は、ブログではタイへ突入したところでした。

タイの撮影地は2カ所。ミャンマー、ラオスとメコン川を境に国境地帯となっているチェ
ンセーン、そしてメコン川を渡ってラオスに行けるチェンコンという2つの町です。

今回は、チェンセーン編です。



チェンセーンでは、町中にチェンセーン王国時代の遺跡が数多く残っています。ちょっと
お散歩程度に道を歩いているだけでも、必ず遺跡があります。



チェンセーンでは、毎週日曜日になるとラオスやミャンマーから生活物資を調達するた
めに多くのボートがやってきます。
ドリンク、おもちゃ、自転車、箆船、建築資材など、器用に重ねながらボートに積み込
み、その作業は一日中続きます。



彼らの、凄まじい体力と筋力には圧巻です。

撮影していて、もし彼らが違う環境のもとにいたなら、すばらしいアスリートになれたか
もしれないと思えてなりません。(もちろん、彼らがアスリートになりたいかどう
かは別として)

そういう意味では、当たり前のように部活やクラブ活動でスポーツをできる環境というの
は、贅沢なことなのだと思います。

話は変わって、チェンセーンの日曜日人が集まる日。だから、もちろん町の中心地も盛
り上がるわけです。
普段は、がらんとしている町が屋台や音楽で一気に活気に満ちあふれます。



チェンセーンは、園境を越えて様々な人が集まる分、いろんな表情をみせる町だと思います。

タイの撮影では、チェンセーン→チェンコーン→チェンセーンという風に移動しながら撮影していたのですが、自分の中では今のところタイが一番好きな国かも知れません。

久しぶりの更新なので、今までのブログの書き方のスタイルを忘れて個人的には気持ち悪い感じですが、とりあえず更新再開ですのでよろしくお願いします。

それでは、また次回、タカノでした。
あ、次はチェンコーン編です。あと、ゴールデントライアングルのことも書いたら、少しだけ。

カテゴリ:

post by 高野 恵介 | 日時: 2011.06.07 | [バナーリンク](#) | [コメント \(2\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)